

株式会社ローソン 2020 年度決算説明会 質疑応答	
開催日時	2021 年 4 月 9 日 (金) 13:00~14:30
出席者	代表取締役社長 竹増貞信 取締役 常務執行役員 CFO 中庭聡 執行役員 管理本部長 高西朋貴 IR 部長 新井紀乃

Q：本部利益の低下傾向が続いていますが、どの様に改善していくのでしょうか。

A：大変革実行委員会の店舗理想型 PJ で 5 月からお客様のニーズの変化に対応した店舗改装実験を 500 店規模で行います。その検証結果を踏まえて下期から改装店舗を増やして日販を改善させていきます。出店については数を目標にすることなく質を重視していきます。

Q：チャレンジ 2025 の EPS500 円以上と言う事は、営業利益が 900 億円程度必要と思われませんが、どの様に達成するのでしょうか。

A：単体が 6 割、子会社が 4 割のイメージで考えています。

Q：営業利益は単体 6 割、子会社 4 割のイメージとの事ですが、中国事業はどの位の利益を見込んでいますか。

A：中国事業は数十億円～百億円をイメージしています。

Q：EPS、ROE を指標としていますが、自社株買いなども想定されていますか。

A：現時点では自社株買いは想定していません。

Q：店舗ごとに品揃えのばらつきがあると感がありますが、大変革 P J ではそのばらつきをなくす様な対応をするのでしょうか。

A：年度内に 5,000 店規模の改装が物理的に可能だと考えています。加盟店が期待をしているハード改善を出来るだけ進め、店舗の品揃えのばらつきを解消していきたいと考えています。

Q：2021 年度は大変革実行委員会の施策で 30 億円の経費を投入されますが、5 年間ではどの位の経費投入になるのでしょうか。

A：5 年間で投入する金額は決めていません。小規模な実験を行い、その効果を検証して投資を実行していきます。

Q：今年度の大変革委員会の施策により、30 億円以上のマイナス要因となる可能性はありますか。

A：今年度は 30 億円の費用を投入しますが、その費用の投入による収益も見込んでいます。経費投入は単なるマイナス要因とは考えていません、収益が見込まれる施策に対して経費を投入していきます。

Q：立地別の出店方針はありますか。

A：立地による出店の方針はありません、個店ごとに判断していきます。

Q：今年度の営業施策に 65 億円の予算を計上されていますが、どのような施策でしょうか。

A：引き続き米飯、惣菜、厨房などの品揃えを強化していきます。特にローソン独自の店内厨房の商品の品揃えには力を入れていきます。

Q：三菱商事のローソンを担当する組織が変更されましたが、変更による影響はありますか。

A：大きな枠組みの中で変化はありません。

Q：2021 年度の当期純利益が少ない様に思えますが、何か戦略的な費用を見込まれているのでしょうか。

A：コロナ影響で採算が悪化した店舗の減損損失を想定し、2020 年度並みの店舗減損損失額を見込んでいるものです。

Q：Challenge2025 において三菱商事の役割はありますか。

A：例えば、ベンダー物流 PJ における DX の活用支援と海外事業の人材及び現地での支援などです。

Q：店舗の改装によって、お客様から見て店舗はどの様になるのでしょうか。

また 500 店舗の改装実験は特定のエリアだけですか。

A：冷凍平台・冷凍リーチインの改装に加え、ローソン独自の店内厨房やカウンターFF のセルフ什器を導入します。

また、良品計画との協業である日用品・雑貨の展開も考えています。なお、500 店舗の改装実験は全国エリアで展開します。

Q：中国ではイノベーションのスピードが速いですが、中国大手のプラットフォーマーとの競争など、戦略的な構想を教えてください。

A：プラットフォーマーとは競争ではなく協業を検討したいと考えています。

以上